

## 「死に値することを知らないながら」

2018年08月25日

ローマの信徒への手紙1章24節～32節　そこで神は、彼らが心の欲望によって不潔なことをするにまかせられ、そのため、彼らは互いにその体を辱めました。神の真理を偽りに替え、造り主の代わりに造られた物を拝んでこれに仕えたのです。造り主こそ、永遠にほめたたえられるべき方です、アーメン。それで、神は彼らを恥ずべき情欲にまかせられました。女は自然の関係を自然にもとるものに変え、同じく男も、女との自然の関係を捨てて、互いに情欲を燃やし、男どうして恥ずべきことを行い、その迷った行いの当然の報いを身に受けています。彼らは神を認めようとしなかったので、神は彼らが無価値な思いに渡され、そのため、彼らはしてはならないことをするようになりました。あらゆる不義、悪、むさぼり、悪意に満ち、ねたみ、殺意、不和、欺き、邪念にあふれ、陰口を言い、人をそしり、神を憎み、人を侮り、高慢であり、大言を吐き、悪事をたくらみ、親に逆らい、無知、不誠実、無情、無慈悲です。彼らは、このようなことを行う者が死に値するという神の定めを知っていながら、自分でそれを行うだけではなく、他人の同じ行為をも是認しています。

パウロは、不信心、不義なる人間は神を知りながらも神として崇めず、空しい思いにふけり、心が鈍く暗く、滅びることのない神の栄光を、滅び去る地上のものに似せた像と取り替える偶像礼拝の罪に陥っていると論じた。そこで神は、彼らを心の欲望によって不潔なことをするに任せたので、彼らは互いの体を辱めた。神の真理を偽りに替え、創造主の代わりに被造物を拝んで、これに仕えた。パウロは、「造り主こそ、永遠にほめたたえられるべき方です、アーメン」と、彼の信仰告白を挿入している。神は、偶像礼拝に走った彼らを恥ずべき情欲に任せられた。その恥ずべき情欲について、「女は自然の関係を自然にもとるものに変え、同じく男も、女との自然の関係を捨てて、互いに情欲を燃やし、男どうして恥ずべきことを行い、その迷った行いの当然の報いを身に受けています」と、同性愛をあげている。聖書では同性愛に関し、レビ記20章13節に、「女と寝るように男と寝る者は、両者共にいとうべきことをしたのであり、必ず死刑に処せられる。彼らの行為は死罪に当たる」と、極めて厳しく諫めている。現在は、LGBTと言われる性的少数者は、病気や罪ではなく、生来の性的指向として認め、彼らへの人権侵害を止めるべきであるという主張が正論とされている。当然である。性的少数者は排除された時代であり、パウロも性知識は不十分だと言わざるを得ない。パウロは、神が、神を認めようとしなない彼らが無価値な思いに渡されたので、彼らはしてはならないことをするようになったのはその報いであると断罪し、諸々の罪を列挙している。「あらゆる不義、悪、むさぼり、悪意に満ち、ねたみ、殺意、不和、欺き、邪念にあふれ、陰口を言い、人をそしり、神を憎み、人を侮り、高慢であり、大言を吐き、悪事をたくらみ、親に逆らい、無知、不誠実、無情、無慈悲です。」パウロの時代、パックスロマーナ期に入ろうとしていた時であったが、その恩恵に与ったのはローマの市民権を持つ人々だけで、ローマ人以外は過酷な生活を強いられていた。荒んだ人々による上記のような罪は日常茶飯事であっただろう。そればかりではなく、周りの人も同じ罪を犯すように勧め、それを喜び、是認しただろう。パウロは、神を知りながらも認めず、滅びゆく偶像に心を寄せ、死に値する罪であると知りながら、自分ばかりでなく、隣人も罪へと誘い込んでいく荒廃を訴えている。